

主に海外（全米）で活躍しています二人のアーティストが、久良岐能舞台の

魅力に誘われ来日！

ワールドツアーの中の久良岐まつり特別公演です

ロサンゼルス出身。太鼓センター・オブ・ザ・パシフィック（太平洋太鼓センター）アーティストック・ディレクター、ケニー遠藤太鼓アンサンブルのリーダー、和太鼓奏者ソロイスト。幼い頃から西洋ドラムを習い、ジャズ、ロック、ポップスなどで活躍してきた。UCLA(カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校)で民族音楽を専攻し、在学中に日本のリズムに魅了され、和太鼓に日系二世としてのルーツを見出し、様々なジャンルの音楽家と共演、世界各国で演奏活動を行う。1980年には10年間を越える日本での邦楽囃子、祭り囃子と組太鼓の修行を終え、外国人としては初の邦楽囃子の名取となった。様々なジャンルの経験を生かした作曲は国境を超え、世界中の観客に認められている。また、ハワイ州より文化、芸術へ寄与した者へ贈られる栄誉賞を始め数々の賞を授与。ホノルル交響楽団、香港フィルハーモニー、ハワイ・オペラ座に加え、パーカッションニストの仙波清彦とボビー・マックフェリンと共演。ドイツ、ベルギーなどへのツアーに加え、ワシントンD. C. のスミソニアン博物館、マイクロソフトのグローバル・ミーティングのためにアトランタのジョージアドーム、ザ・フーのホノルルのコンサート等、アンサンブルでも大活躍している。ソリストまたアンサンブルの一員として忙しく活躍している他、太鼓センター・オブ・ザ・パシフィックという太鼓道場のディレクターも務めている。洋楽、民族音楽と日本の伝統音楽の経験を生かし、様々なジャンルのアーティストとの共演を通して革新的でクリエイティブなアプローチで伝統的な和太鼓を新しい方向に常に進めている。演奏経験は、ワシントンD. C. で開催された全米桜祭りの開会式で演奏し、スミソニアン博物館での北斎の展示にも参加し、その他、イギリスツアーと太鼓とパーカッションのアーティスト広田ジョージと尺八師ネプチューン海山とのチェコツアーも行った。そして、ソルトレークツアー、米国東海岸ツアーとスタンフォード大学交響楽団との共演など活躍中。



ケニー 遠藤 Kenny Endoo

太鼓アーティスト

金子純恵 kaneko Sumie

山田流箏曲・三味線奏者・ヴォーカル



千葉県柏市出身。5歳より、山田流箏曲を宮下伸に師事。2000年、東京芸術大学音楽学部邦楽科 箏曲山田流専攻卒業。在学中、山田流箏曲と三味線を井口法能に師事。アカンサス賞、常栄賞受賞。2002年に渡米。ボストンパークリー音楽院パフォーマンス科ジャズボーカル専攻入学。2006年、同校を首席で卒業。パークリー卒業後、アメリカ東海岸にてさまざまな演奏活動を展開、名を広める。主な活動として、ピューリッツァー賞受賞者 Paula Vogel 作「The Long Christmas Ride Home」音楽提供、カーネギーホール、リンカーンセンター、ブルーノートNY、ボストンバレエ、ゲティセンター、ヨーヨーマのシルクロードプロジェクト参加。ハーバード大学、コロンビア大学、プリンストン大学、マサチューセッツ工科大学ともプロジェクトを持ち、学術的にも講演を行う。2014年には、在アメリカ日本大使館の協賛でワシントンDC ジャズフェスティバル ヤングアーティストシリーズにて演奏。ジャズグループとしては初の日本大使公邸での演奏となった。また2015年4月には、世界最高峰のジャズクラブ、ブルーノートNY本店にてデビューを飾り、両セット満席にするという快挙をなした。アメリカ国内の活動に加えて海外公演も多く、ブラジル、ペルー、ボリビア、ジャマイカ、グアテマラ、ニカラグアで日本文化普及活動を行う。2018年にはヨーロッパ、中東・南アジアツアーと各都市の演奏に加え、現地大学やボランティア施設でも訪問演奏を行い、ストリートチルドレンのための教育に関わる。異ジャンルとのコラボレーションも精力的に取り組んでおり、Gamelan Galak Tika の Evan Ziporyn、和太鼓のケニー遠藤、元鼓童の渡辺薫、義太夫三味線の田中悠美子をはじめ画家、舞踏家、書家など様々な一流アーティストと共演している。また古典演奏だけでなく、オリジナルや即興演奏も得意とし二枚をアルバム発表。中でも2016年に発売された「丑三ツ刻 Dead Of The Night」は、全編オリジナル曲で唯一無二の世界観を表現していると高い評価を得ている。